

温暖化防止ながれやま便り

第 15 号 2015 年 6 月

NPO 温暖化防止ながれやま

代表 春田 育男

流山市美田 69-57

編集 石垣 幸子

平成 27 年度の活動方針が決定

低炭素なまちづくりを目指す

代表 春田育男



平成 27 年 4 月 27 日(月)、生涯学習センター（3F）大会議場において平成 27 年度の温暖化防止ながれやまの総会が開催され、平成 27 年度の活動

方針が決定しました。

当会は、平成 14 年 9 月に設立され 13 年目を迎えます。当会は「国や市の地球温暖化防止計画に基づき、市民、企業、行政、各種団体と連携し市民の領域で温暖化防止の推進活動する」ことを常に認識しながら低炭素なまちづくりを目指します。

27 年度の活動計画は、未来を担う子どもたちに積極的に啓発活動をしします。また、地球温暖化に関わる省エネと再エネの 2 つのプロジェクトを立ち上げます。この P J は数年継続する予定です。皆様のご支援宜しくお願い申し上げます。

<平成 27 年度活動計画>

1、地球温暖化防止の啓発活動をしします。

①市民環境講座を 4 回開催しします。

第 1 回：6 月 7 日（日）生涯学習センター

「太陽エネルギーを実感しよう！」

第 2 回：8 月 1 日（土）南流山センター

「夏休み親子環境学習」

第 3 回：10 月 10 日（土）生涯学習センター

「電力の自由化」（仮題）

第 4 回：2 月 14 日（日）生涯学習センター

「講演と映画上映会」

②出前講座

市内の学校、事業所、自治会等を訪問して地球温暖化対策、環境家計簿の普及を図ります。

（向小金小学校、流山北小学校、美都里会など）

2、学習会を開催しします。

省エネ市民会議を 12 回開催しします。

3、地球温暖化に関わる普及事業を立ち上げます。

・省エネチャレンジ普及 P J（P J 長：平手）

・再生可能エネルギー普及 P J（P J 長：馬渡）

4、地球温暖化に関わる環境政策について行政に提言しします。流山市地球温暖化対策実行計画の改定検討 WG を立ち上げます。

5、他団体との連携及び協働しします。

6、広報活動しします。

・会報紙を 4 回（6 月、9 月、12 月、3 月）発行しします。

・ホームページを充実しします。

<http://www.na-shimin.org/w2/obn/index.html>

27 年度の役員体制

理事	新旧	役割分担
春田育男	再任	代表
笠原久恵	新任	副代表（代表補佐、事務局補佐）
高橋 勇	新任	事務局長兼出前講座事業部長
板倉 正	再任	事務局次長
石垣幸子	再任	会計兼広報部長
馬渡敏隆	新任	出前講座副部長
難波幸男	再任	監査
古井 敢	新任	監査
小山 俊	再任	アドバイザー
新田 修	再任	アドバイザー
平手 彰	再任	アドバイザー

「井田寛子さんの講演と映画上映会」を終わって 参加者の感想

第5回市民環境講座実行責任者：馬渡敏隆

2月15日、2年ぶりの講演と映画上映会を行いました。今回はNHK「ニュースウォッチ9」で活躍されている気象キャスターの井田寛子さんを



お招きしての講演「お天気キャスターから見た地球温暖化」と映画「+6℃」の上映会を行いました。

井田寛子さんのお話は5つでした。

1. 気象キャスターの仕事は
2. 地球温暖化とは
3. その理由は
4. 広がる影響
5. どう備えたらいいのか

井田さんは災害報道の経験をきっかけに災害から命を守る情報を発信できる気象予報士になろうと、キャスターの仕事をしてながら何度も挑戦して資格を取得したそうです。昨年9月ニューヨークで行われた国連気象サミットに、日本の気象予報士として唯一参加した井田さん、過去100年間で世界の平均気温は約1℃、東京においては約3.2℃も上昇していて、異常気象や海面上昇などの様々な影響が起きていると語りました。

講演の最後には半分くらい水の入った2リットルのペットボトルに二酸化炭素を注入し、よく振るとあら不思議！ペットボトルはつぶれました。二酸化炭素が水に溶けて気体の部分が少なくなり起こ

ったものですが、2回、3回と繰り返すうちつぶれなくなりました。地球でも同じことが起こっており、吸収源の海が飽和状態になると地球温暖化にも大きな影響がでるとのことです。

会場の皆さんから頂いたアンケートの一部を紹介します。

★とても分かりやすいお話でした。水の実験も面白かったです。

★数字や写真を使いながら非常に分かりやすかったです。

★将来の気温上昇シュミレーションは良かった。

★将来の温度にはビックリ、今から対策を考えないと。

★温暖化防止に節電等益々気をつけようと思った。

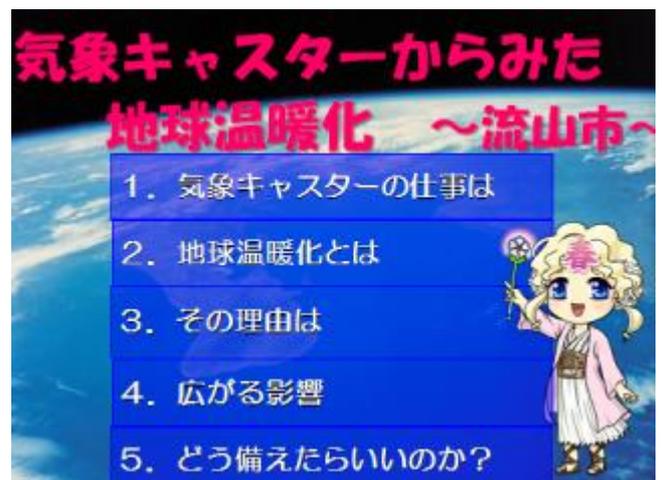
★地球温暖化の深刻さが分かりました。

★温暖化対策の必要性、できることから始めることが分かった。

★予報の出し方など興味深かった。

★TVと同じ優しい声がよかった。

このほか井田さんの暖かい人柄に好感を持ったという感想が多く寄せられました。



講演のあと地球温暖化のドキュメンタリー映画「+6°C」 の上映が行われました。

この映画では、地球温暖化により世界の気温が上がっていった時に何が起こるのかを研究に基づき描いています。



1°C上昇でも砂漠化や森林火災が各地で増え、2°C上昇すると生態系が激変し、それ以上上昇すると温暖化を食い止めることが難しくなり、最悪の場合、人類も滅亡の危機にさらされる可能性がある、と、ショッキングな内容で参加者のアンケートでも大きな反響をいただきました。人類は気象変動に立ち向かわなければなりません。

参加者のアンケートを紹介します。

- ★温暖化は恐ろしい、とても怖い映画でした。
- ★温暖化を深刻に受け止めることを痛感した。
- ★温室効果ガスがもたらす深刻な事態を見せてもらった。
- ★予想以上の勉強をさせてもらった、警告を促すすごい映画。
- ★温暖化が進むとどの様になるかが分かった。
- ★改めて深刻な問題だと認識した。
- ★今の地球の状況が分かった。CO2削減の努力を
- ★地球が危機になっていることが分かった。小さな事からでも始めたい。
- ★地球を壊しているのも人間、守るのも人間だけです。生物、植物の未来は私たちにかかっている。

★この先地球はどうなるのか、もっと温暖化の事を考えなくては。

★現実に迫る未来、できることは実行しなくては

★昔を思い出し、孫たちにも使い捨てを少なくさせていこう。

★便利さを少し我慢し、生活の中でできることを心がけたい。

★温暖化は待たなし、日々忘れないで生活しなければ。

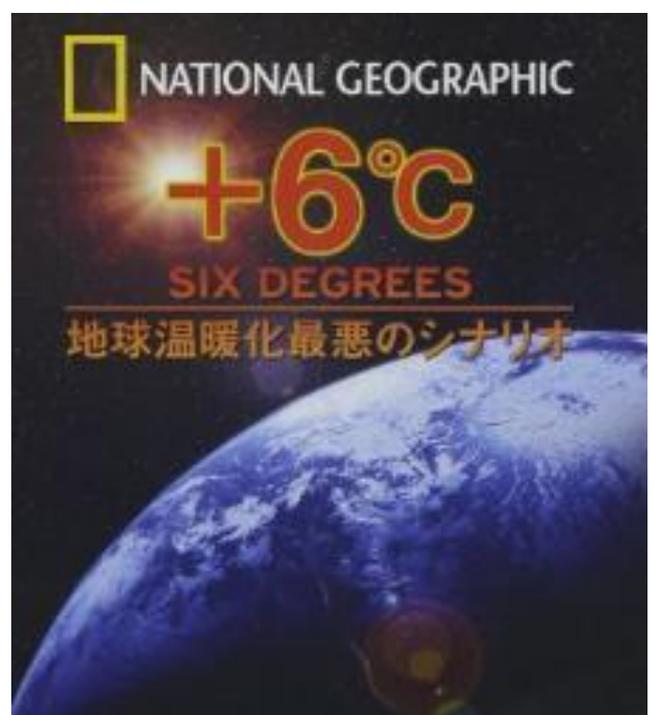
★大いに考えさせられた。私たちも何かしなければ。

★講演、映画とも良かった、意識を変える必要ありと思います。

★温暖化防止の機運を高めてほしい。

★良い映画なので、もっと広めてほしい

温暖化のシナリオを回避するために私たちができることはエネルギーの消費を少なくすることであり、ムダを亡くすことです。温暖化防止ながれやまの環境・出前講座などで新しい節電スタイルをお知らせしています。



先送りできない“気候変動問題”に対処する最近の市民の課題

省エネ市民会議第94回担当：新田 修

「温暖化防止ながれやま」が実施の「省エネ市民会議(市民の目線で省エネについて学習する会)」が始まって以来の大きなテーマを掲げた、第94回学習会を担当しました。

最近では温暖化に関する話題が新聞やインターネット、テレビなどで情報が煩雑に飛び交っています。その内容を整理し学習することにより問題点を明確にし、共有できれば今後の活動に活かせるものと企画実施しました。

世界の地球温暖化対策(世界では気候変動という)が今年、新たな局面を迎えています。

国際社会は、2015年年末に開かれる国連の会議(COP21)で、京都議定書に代わる新しい国際枠組みを作ろうとしています。そのために、各国は温室効果ガスの大胆な自国の削減目標案を打ち出す「約束草案」を準備中です。日本もちろん準備中です。

日本のエネルギー政策は重要な節目にあると思います。2011年3月の東日本大震災で止まったままの原子力発電の影響でエネルギー政策は停滞していて、地球温暖化対策は日本の市町村全域までもこの4年間全く進展していません。むしろ後退している現状にあります。

ところが、上記のように日本国として国連の「2020年からの新枠組み条約」作成に基づき温室効果ガス削減目標案を今年3月末までに提出すべきところ未だに提出できていないのです。

政府も提出に際し、昨年4月の「エネルギー基本計画」を発表したものの、具体案が示せず先送りとなって



います。

先ず、経済産業省の有識者会議を設けて、エネルギー構成を示すとともに、削減目標値を提示しました。その後、電源の発電構成について経産省案がようやくまとまり、4月26日に提示されました。

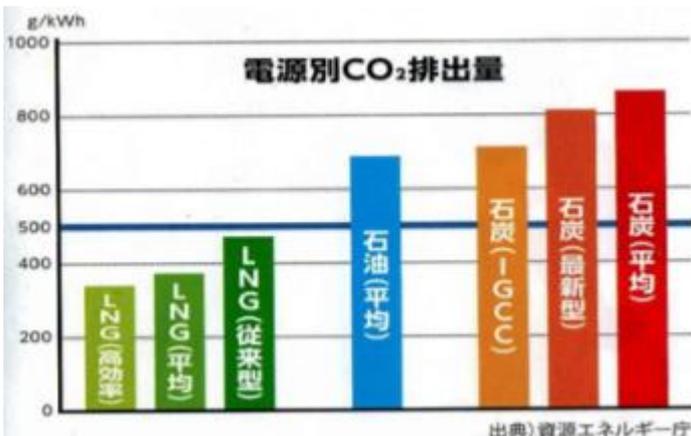
学習会では問題を解りやすくするために、朝日新聞の掲載記事「温暖化対策」と「どうする電源構成」を引用し、3月初めから4月末日までの関連記事内容を説明しました。

第1の問題点は温暖化対策の削減目標案の決定と電源構成決定案プロセスについてです。

5月28日、日本経済新聞の記事によれば「今になって基本的なことを言うのは、私個人としては非常にむなしく思う」と小委員会の委員長は苦々しい表情を浮かべた。2030年の電源構成を決める同委員会では、政府案が淡々と了承されると大半の関係者がみっていた。これを土壇場で覆したのは、3人の委員だった。「原発比率が20~22%になる案は『原発依存度を可能な限り減らす』とした政府のエネルギー基本計画と相いれない」と3氏が連名で意見書を出し、政府案に異議を唱えたようす。

その後、朝日新聞の5月29日付。オピニオン記事「エネルギーと民主主義」インタビュー、大阪大学教授の小林博司氏の「原発事故教訓に 社会どう変えるか 土台の議論足りぬ」「もう一度、政策の決め方から見直したほうがいい」「避けられぬ難題 市民参加型で 向き合う知恵を」との提言です。

全くの同感です。詳細に記すことも考えていましたが、この記事に接してから一切省略いたします。



第2の問題点は、削減目標案と再生可能エネルギー比率、実現する政策や国民との信頼です。「世界に取り残される国、このままでいいのか」

経済産業省の2030年度の電源構成案 数字は%



経産省は6月早々に関係閣僚の決定を得て、その政府目標は、安倍首相が6月の主要国首脳会議(サミット)で各国に示す方向のようです。電源構成は温室効果ガスの排出を2030年までにどれだけ減らすかの目標の大前提になるために、原発や再生エネなど各電源の比率は国民の理解が得られるのか。現在の提出法案でも電力やガスの一体化した小売り自由化制や電力送電網改革、再生可能エネルギーの賦課金納付など国民生活と直結する問題点が山積しています。

また、経産省案が世界各国の削減目標案に劣るとも指摘されている中で、単なる数字あわせとしか見えない2013年度比較で26%目標案では、先進国として貢献し乗り切れるかは疑問があります。

第3の問題点は、地域の低炭素まちづくりに市民の省エネ行動への賢い判断を結集する。

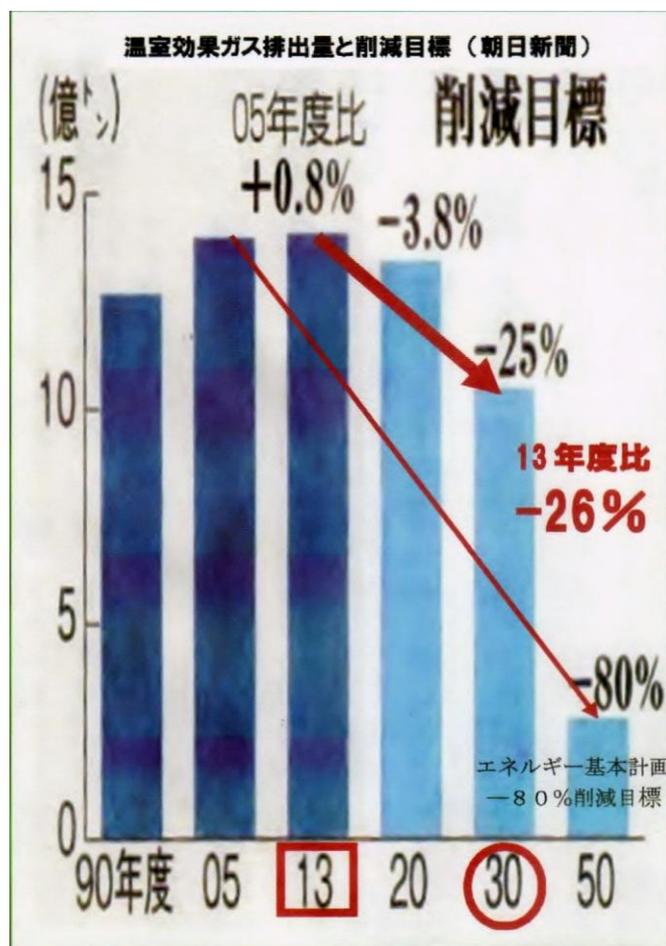
4月14日に環境省が発表した、2013年度の温室効果ガス排出量は90年度比10.8%増の14億800万トンで過去2番目に多かった。そのうち93%がCO2排出量。減少に転ずる気配はない。家庭部門では90年度比52.3%増加している。

増加の要因は、近年の火力発電の増加により電力の排出原単位が悪化したことや、世帯数が増加、削減意識の希薄さをもあげられる。

流山市は27年度から第2次環境基本計画を策定し、従来からの「温暖化対策ニコニコプラン」を推進しているが市民の取り組み不足が目立っている。

環境家計簿の推進やスマートメーター設置、太陽光発電・太陽熱設備の設置などや自家用車のシェア、自転車利用道路整備などを行政と一体になって、省エネをより強力に実現できる経済的手法を活用しながらまちづくりを期待いたします。

気候変動問題の緩和だけでなく、気候変化への対応策を含めた、社会システムの大転換を図る大きな変動期に入っていることを認識し、我々の日常生活の対応を確実にしなくてはならない。



「水素社会について考える」

省エネ市民会議担当：春田育男

第 93 回省エネ市民会議は、「水素社会について考える」として開催された。朝日新聞「時時刻刻」などでは下記のように報道されている。(図・解説は引用)

水に電気を通すと水素と酸素ができる。学校の理科で習う水の電気分解だ。逆に水素と酸素を反応させると、水とともに電気エネルギーが得られる。それを取り出して利用するのが「水素エネルギー」のおおまかな仕組みである。

18 世紀の産業革命以来、エネルギーの主役であった石油や石炭と言った化石燃料は大きな環境問題を引き起こした。環境問題では期待された原子力も次々と問題が露見している。そうした中で、太陽光などの再生可能エネルギーとともに注目を集めているのが、水素エネルギーである。

トヨタ自動車は昨年暮れ、水素と酸素を反応させてつくった電気で走る燃料電池車(FCV) [MIRAI(ミライ)]の市販を始めた。走行時に水しか出さず、究極のエコカーと呼ばれるFCVの市販は世界初。今年を「水素元年」と呼ぶ人もいる。水素の使い道は車を動かすだけではない。海外の石油資源にエネルギーの大半を依存する日本にとって、水から作ることができ、使用時に二酸化炭素(CO2)を出さない水素は将来のエネルギーの主役になる可能性がある」と期待されている。

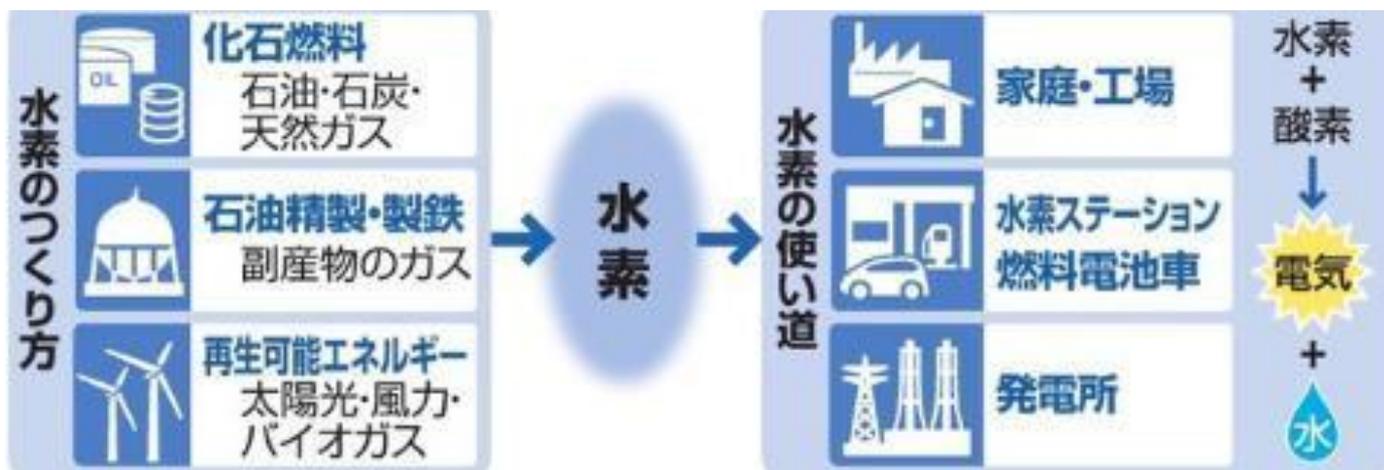
東京都の舛添知事は水素エネルギーシンポジウム

の挨拶で「1964 年、東京五輪を機に新幹線が走った。2020 年の東京五輪では未来に何を残すのか。私は水素社会を残したい」と述べたという。普及に向けてはもちろん課題の方が多い。

温暖化対策からすると、天然ガスから水素を作ると二酸化炭素(CO2)の排出量は0ではない。再生可能エネルギーを使って水から水素を取り出す手法が確立されれば、CO2の排出はガソリン車の 1 割以下になる。一番の課題はコストだ、量産されるようになればコストは下がっていくだろう。後は安全性への配慮だろう。

この様に期待される「水素エネルギー」ではあるが省エネ市民会議に参加された 10 名は下記のように意見を述べている。

- ★CO2を排出しない光触媒や再生可能エネルギーによる水素製造でなければ低炭素社会に反する。
- ★「水の電気分解—水素製造—燃料電池—電気」の循環ではエネルギー変換効率が悪い。コスト高。
- ★水素を電気に変換するのでは無く燃料として使うほうが良いのではないか。
- ★燃料電池車(FCV)は、水しか排出しないと宣伝しているが水素製造過程について説明すべきである。電気自動車も充電する電気について同様である。



第1回市民環境講座の実施報告

太陽のエネルギーを実感しよう！

第1回市民環境講座実行責任者；平手 彰

6月7日、流山市生涯学習センターに於いて第1回市民環境講座を開催した。当日は、朝から太陽燦々と、太陽エネルギーを実感するには最高の日よりとなった。屋外会場の一隅では、太陽熱による湯沸かし実験、太陽光発電のエネルギーで、モーターを回したり、風をおこしたりの実験。また、このエネルギーを人力で起こすとどのくらいの体力が必要か、自転車こぎで体験、体験者たちは自然エネルギーとしての太陽の力を実感した。

屋内会場では、工作の前に、ミニ講座「電力の単位であるワット(W)の概念」を勉強、机の上に並べられた電気器具のどこに「W」が書かれているか探し出し、ワット数を調査、一般に熱源として使用するもの(ストーブ、電気釜、ドライヤーなど)はワット数が高く、モーターとして使用するもの(扇風機など)は低いことが分かる。節電、省エネの意識を高めてもらう事が狙い。工作教室では、ペットボトルの上に太陽光パネルを乗せて固定し、それにビニール線を配線して出来上がり。この小さな太陽光パネルで動くのかな、わくわくしながら、太陽の光いっぱい2階の屋上へ。

「わー 走ったー！」あっちでも、こっちでも子どもたちの歓声があがる。太陽光だけで動く！ 自然エネルギーの力を実感した瞬間である。



工作教室では、ペットボトルの上に太陽光パネルを乗せて固定しそれにビニール線を配線して出来上がり……



人力で起こすとどのくらいの体力が必要か、自転車こぎで体験、体験者たちは太陽の力を実感した。

第2回市民環境講座の予告

夏休み親子工作教室

空気マグネシウム燃料電池車を作ろう！

新エネルギーとして注目されている「空気マグネシウム燃料電池」という電池を作って車を走らせてみよう。色々な電池の仕組みの話もあって自由研究にぴったりです。工作指導は、サイエンスシャワー代表 横田文男先生(元中学校理科教諭)

- 1, 日時：平成27年8月1日(土)
- 2, 場所：南流山センター(2階)ホール
南流山駅南口より4分
- 3, ①お話：温暖化とクリーンエネルギー
②実験：色々な電池
(備長炭や果物などで実験)
③工作：燃料電池車
- 4, 対象：小学4年～6年 参加費は無料。

*詳細は、広報ながれやま(7月11日号)に掲載します。



「わー 走ったー！」あっちでも、こっちでも子どもたちの歓声があがる。

26年度の活動報告 写真集（抜粋）

1. 市民環境講座

第1回「太陽のエネルギーを実感しよう」（6月）



第2回「ペットボトルで風力発電機に挑戦」（8月）



第3回「新川耕地の楽しさを知ろう」（10月）



第4回「地産地消で地球に優しい食生活」（11月）



第5回「講演と映画上映会」（2月）



2. 出前講座

第1回：流山市国際交流協会（6月）

「この夏を快適に・・・」



第2回：流山北小学校（9月）

「流山市の環境」



3. 省エネ市民会議

H26年5月「エネルギーとは」

講師：内山明治（千葉県環境学習アドバイザー）



<編集後記>

地球温暖化を防ぐために先進国主要7カ国首脳は6月8日、世界全体で2050年までに最大70%の排出削減を宣言したという。新田さんにも書いて頂きましたが、気温が2℃上がるとどうなるか、私たちの共通の認識として持っていかなければならないと思う。

（石垣幸子）